モノグラフ

ジョージ・ブラウン・コレクション

林 勲男（はやし いさお）
本館民族社会研究部

サモア諸島の女性用帽子（左から標本番号H137818、H137823、H137822）

ニューアイルランド島のマランガン彫刻（標本番号H144390）

民博は、メソジスト教会ウェズリー派宣教師ジョージ・ブラウンが、一九世紀末から二〇世紀初頭にかけて南太平洋で収集した、三〇〇〇点を超す民族誌標本資料の大型コレクションを所蔵している。英国のニューキャッスル大学から国際競売会社サザビーズを通じて売りに出されたものを、一九八六年に購入したのである。

ブラウンは生前に数多くの自然誌や民族誌の標本を収集している。その活動や収集をめぐる人間関係の詳細については、シドニーにあるニュー・サウス・ウエールズ州立ミッチェル図書館が保管する彼の日誌や手紙から窺い知ることができる。やはりシドニーのオーストラリア博物館が所蔵する、ブラウン自身の撮影による九〇〇点を超すガラス乾板も、重要な手がかりを与えてくれる。

宣教師として最初に赴任したサモア諸島では、ブラウンの博物学的関心は、民族誌ではなく、むしろ鳥類を中心とした自然誌標本にあった。彼が民族誌標本の収集にも関心を向けるようになったきっかけは、後にケンブリッジ大学考古人類学博物館のキュレータとなった若き日のアナトーレ・フォン・ヒューゲルと出会ったことである。ヒューゲルと親交があったのは、ブラウンが一四年間のサモア諸島での伝道活動を終え、一旦シドニーに戻った後、次の赴任地であるビスマーク諸島に赴くまでの一八七四年一二月から翌年六月のほぼ半年間であった。ヒューゲルもブラウンと同様に鳥類標本を収集していたため、意気投合したのであろう。

ヒューゲルの民族誌標本の収集方法は、当時の宣教師や入植者たちの大半が、単に「未開」や「野蛮」を表象する「珍品」として収集していたのとは異なり、現地名、材料、交易品としての重要性なども入念に記録していた。また彼は、生活のさまざまな場面で使用されていたものを広範囲に集めることに努めていた。後にたもとをわかつことになったが、ブラウンはこの若き博物学者から民族誌標本の価値と収集方法について多くを学んだようである。

あらたな伝道地ビスマーク諸島のポート・ハンターに到着してからは、ブラウンは鳥類や植物の標本採集に加え、民族誌標本も収集し、オーストラリア、ニュージーランドそして英国の博物館や大学の研究者に寄贈している。また自身のコレクションのための収集も始めている。その後も、当時の西洋文化の影響を示す器物をも含め、じつにさまざまなものを彼は収集した。

ブラウンは、一八九三年にシドニーの北部郊外のゴードンに家を購入した。その家はポート・ハンターで住んでいた場所の地名にちなんで「キナワーヌア」と名づけられた（後に所有者が変わると「ウィンザー・ハウス」に改名された）。この家の南側には増築した一棟が続いており、広々としたその部屋に、彼は南太平洋の島々で集めた博物誌標本を保管していた。彼は一九一七年四月七日夜、この家で八二歳の生涯を閉じたが、その訃報を伝える新聞記事は、この一室についても言及し、博物館さながらであると伝えている。

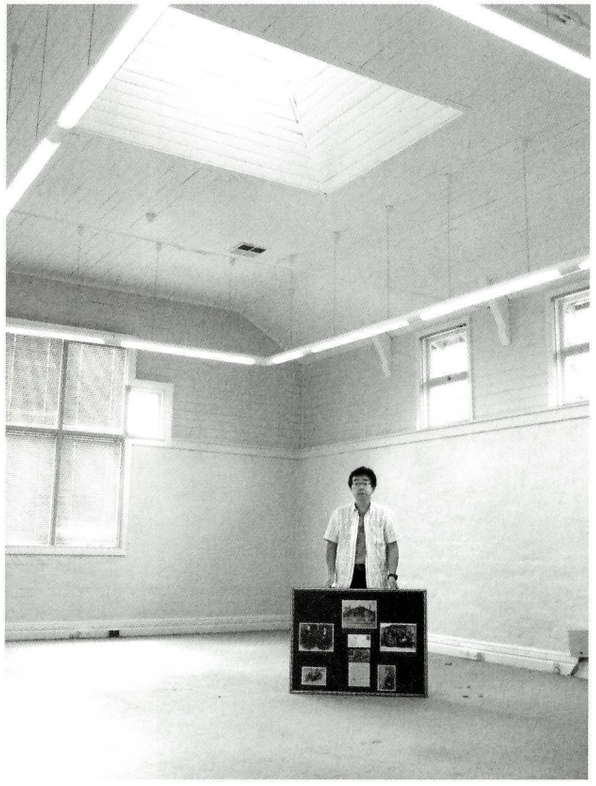
ブラウンの死後、妻のサラは二人の娘たちとこの家に暮らしていたが、彼女が一九二三年に亡くなると、おそらく家は売却されたのであろう、娘たちはローズヴィルに移っている。ちなみに、彼女たちのうち、長女メアリーはシドニー大学の最初の女子卒業生二名のうちの一人であった。

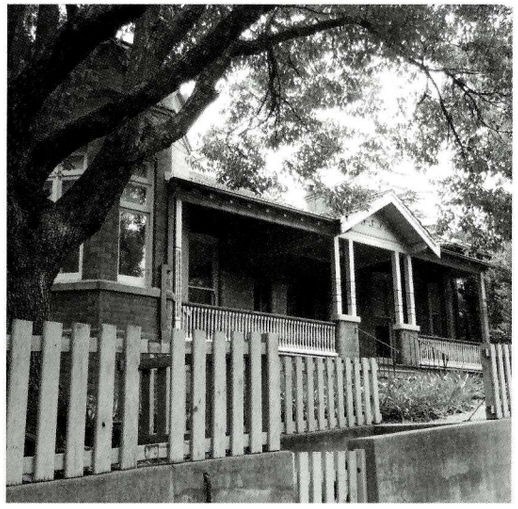
遺族は博物誌標本について、ブラウンの名声を残すものであり、分散させることなくひとつのコレクションとして、博物館に展示・収蔵されることを強く望んだ。そして、ブラウンの生まれ故郷であるイングランドのバーナード・キャスルにあるボウズ博物館へ売却した。一九二一年のことである。そして一九五四年、財政上の理由からボウズ博物館は、このコレクションをニューキャスルのキングズ・カレッジ（現在のニューキャスル大学）へ転売した。しかしまたしても、ニューキャスル大学は大学の運営資金確保の必要に迫られ、コレクションの売却を決定したのであった。ブラウン自身同様、彼のコレクションも転住を繰り返したわけである。

一九九九年春、コレクションは民博の特別展として公開された。民博がこのコレクションの終の棲家となることを願っている。

母屋に向かって左手奥が博物誌資料を保管した建物

博物誌資料が保管されていた部屋と筆者





シドニー郊外に現存するブラウン一家が住んでいた家